

留萌・宗谷



道北X毛

8

自立させたいと思うでしょう。地域社会もそれと同じでいいんじゃないですか。

園生の長所を評価

「今まで私たちは、園生の足りない部分を補う

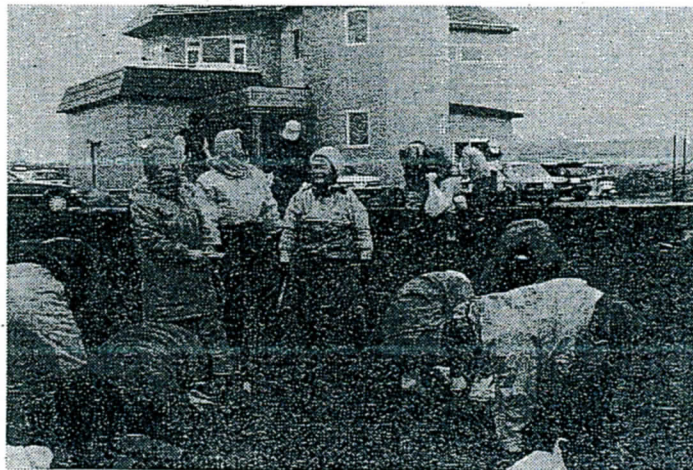
小平

知的障害者の自立を目指す「おにしか更生園」(大沢邦昭園長、園生八十八人)が、小平町鬼鹿にて開設したのは一九八四年。「そつたらもんがきたら困るべさ」。誘致の際、そんな声も出た同園が今年、十周年を迎えた。

福祉で町づくり

四月、町の特産品研究開発や障害者と地域住民の交流促進を図るクリエーションセンター「ういず」が更生園の横に完成。今年十三日には、地区の商工会や農、漁業、更生園の代表など十人ほどが集まり「ういずと接む会」が結成された。「ういず」の特産品は地元の魚や野菜

住民意識変え 経済にも刺激



地域と一体で実施された「ういず」前でのクリスマスツリーの球根植え。11月12日

「おに」は「人口の増える福祉施設の誘致は、過疎の町では企業誘致みたいなもの」と言っている。「でもね、彼らと心が通じ合って初めて、経済活動が生まれ『福祉で町づくり』が実現できるんじゃないのかな」。

定着した誘致施設

「ういず」では当初、製造パンは二十七種類だったが今は四十二種類。十月からはケーキやクッキーも手掛け、園生が栽培した大豆を使ったミンチによる小平産牛肉のミンチ漬けやサケなどの加工品開発も目指す。パン作りを通して、地域の婦人や児童と園生らの交流も行われている。

「ういず」では当初、製造パンは二十七種類だったが今は四十二種類。十月からはケーキやクッキーも手掛け、園生が栽培した大豆を使ったミンチによる小平産牛肉のミンチ漬けやサケなどの加工品開発も目指す。パン作りを通して、地域の婦人や児童と園生らの交流も行われている。

大会など、鬼鹿ではこの十年、住民主体の新しい行事や企画が次々と誕生。住民との共生を目指す「ういず」は少しずつ、そして確実に、町の産業、文化、経済の振興に刺激を与えつつある。(留萌支局 中元 克治)